
MUIPのご紹介と MUFGのASEANにおける金融包摂に関する取り組み

2022年4月28日

株式会社三菱UFJイノベーション・パートナーズ

MUIPのご紹介

自己紹介



- 1991年に三和銀行入行。事業調査部で家電、産業機械、マルチメディア等を担当。1996年事業調査部(ニューヨーク)に異動し、テクノロジー、メディア、テレコムを担当。2001年EC業務部に異動し、法人向けネットサービス開発に従事。
- 2002年に独立系ベンチャーキャピタルのグローバル・ブレインに参画し国内外のスタートアップ投資とKDDI等のCVCファンド運営に携わる。
- 2018年に三菱UFJ銀行に入行し2019年に当社代表取締役就任。

MUIPの会社概要

メガバン初CVC

- 2019年1月に設立、MUFGのオープン・イノベーション戦略の一翼を担う。
- 2019/1 1号ファンド、2021/7 2号ファンド合計で400億円のCVCファンドを運営。

事業目的

- MUFGとシナジーの見込まれる国内外のFinTech関連スタートアップを世界中からソーシング。
- 当該スタートアップに投資を行うと共に、投資先とMUFG各部門の協業を推進。
- MUFGのオープン・イノベーション戦略全般への貢献。

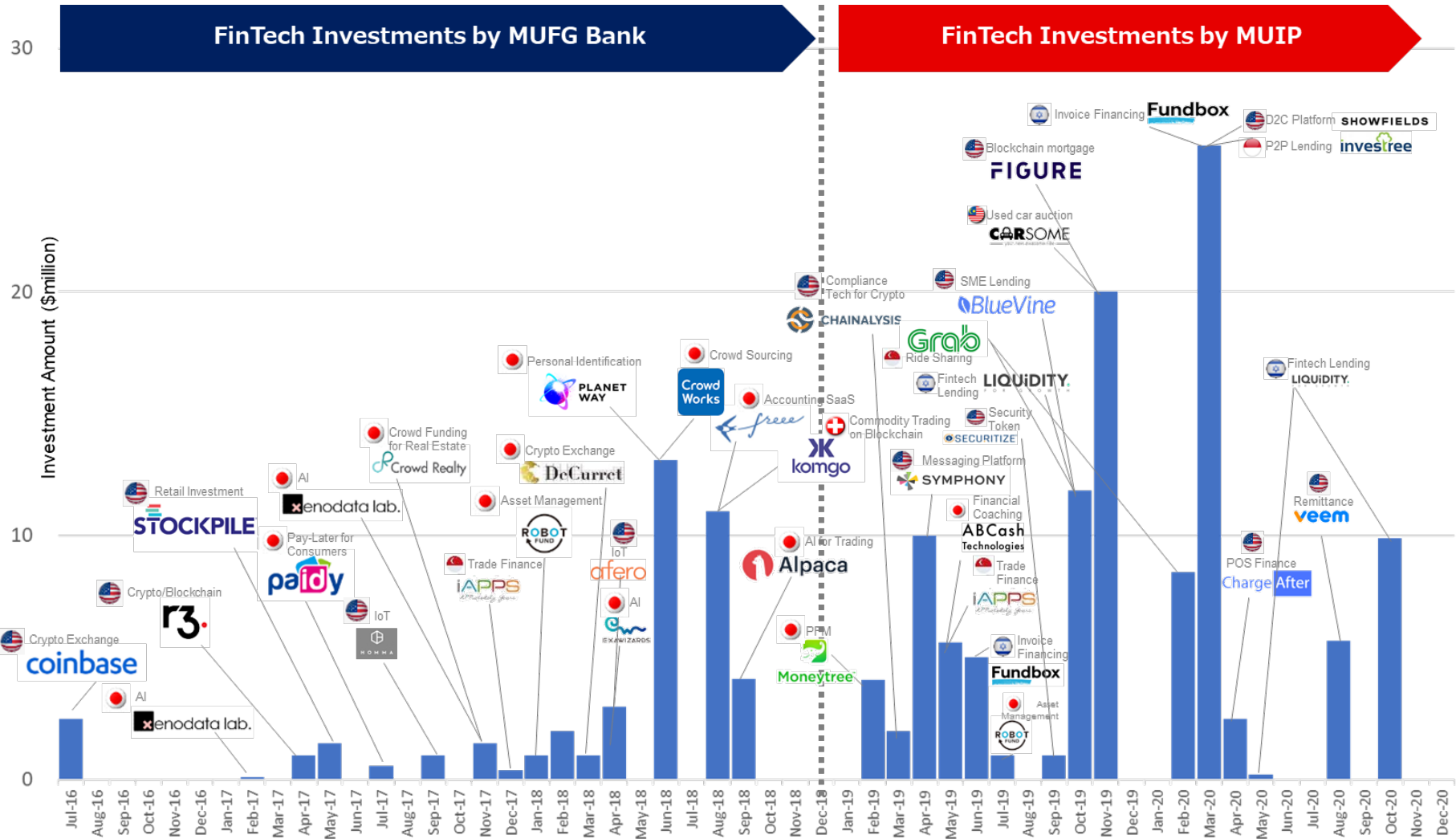
本社所在地

- 大手町パークビルディング(大手町1-1-1)

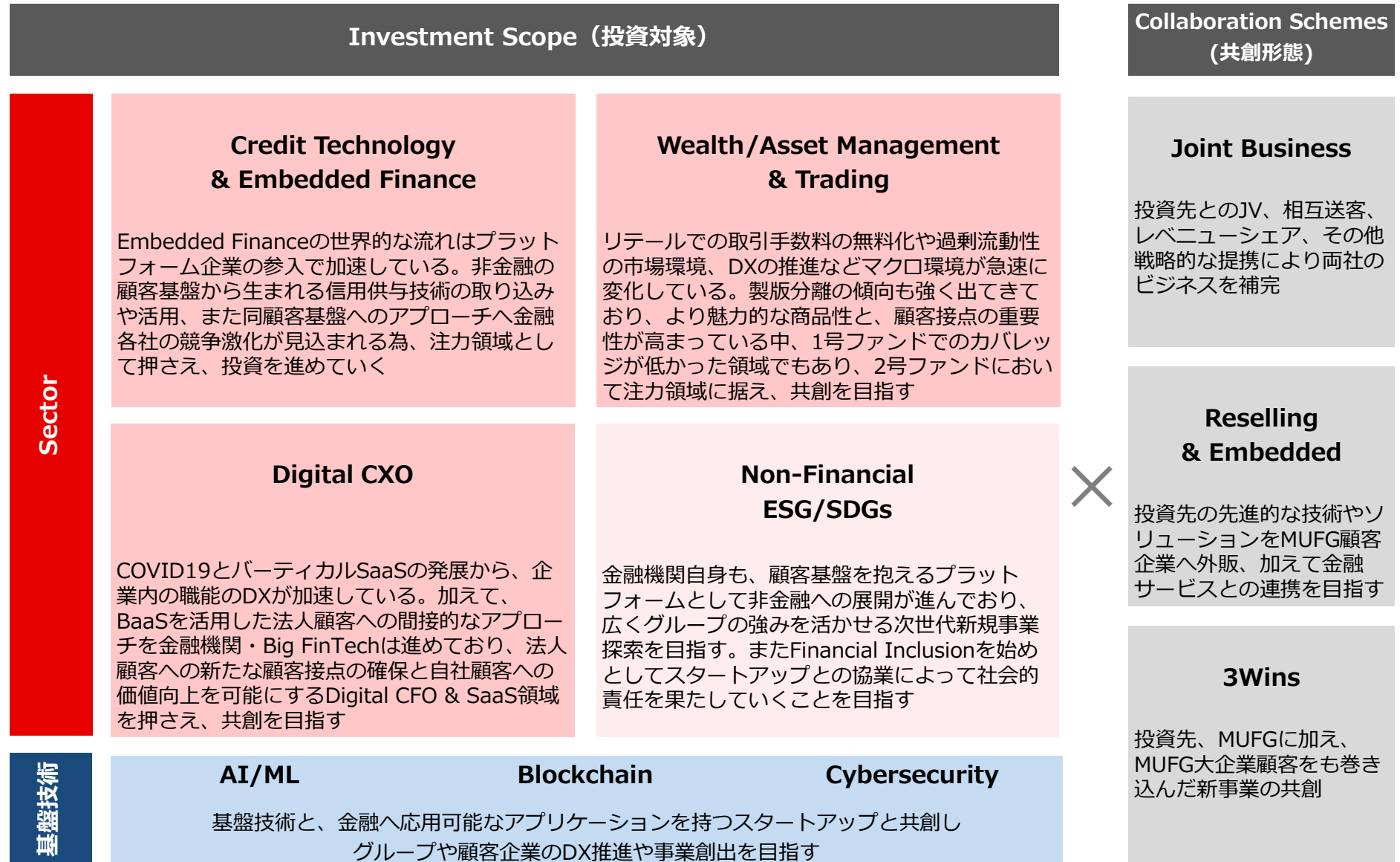
メンバー

- 専担者18名、うち外部採用16名、銀行出向者2名
- 兼務者は各事業本部企画部門中心に約20名

MUFGによるFinTech戦略投資の実績



MUIPの投資戦略



MUIPの投資先

U.S. and Israel



Southeast Asia



South Asia



Africa



Oceania



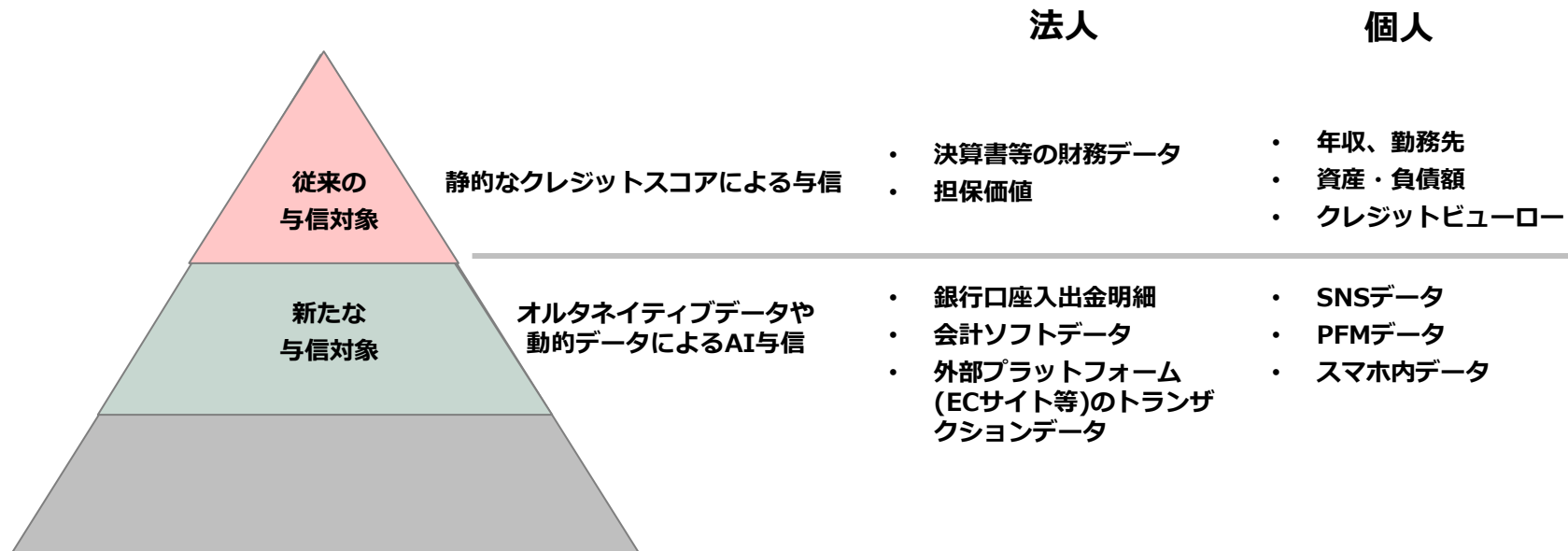
Japan



MUFGのASEANにおける金融包摂に関する取り組み

FinTechスタートアップとの協業による与信対象の拡大

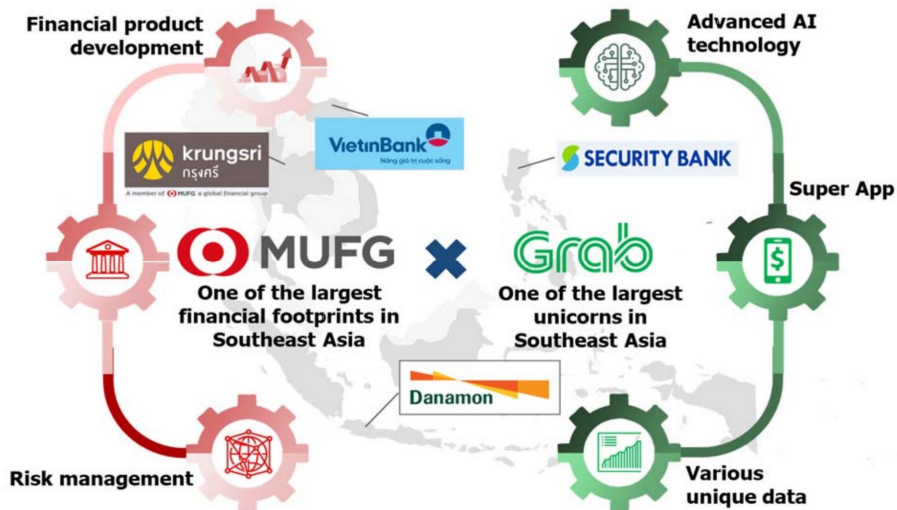
- 従来の銀行与信は、顧客の財務資料や静的データをベースに実行。結果として、実質的な返済能力と銀行による与信額に構造的なギャップが発生。
- 一方、先進的なFinTechスタートアップは、従来銀行が用いていなかった様々なオルタネイティブ・データを用いて、機械学習をベースとしたアルゴリズムで「実質的な返済能力」を計測すると共に貸出後も動態管理することで与信対象を拡大。
- FinTechスタートアップと提携する金融機関としては、①当該アルゴリズムを社内で活用する、②当該アルゴリズムの内容を理解した上で当該FinTechスタートアップにバックファイナンスを提供する、といった形態で与信対象を拡大。



ASEANにおけるMUFGとFinTechスタートアップの協業事例 ①Grab

- 三菱UFJ銀行とMUIPにより合計700百万ドル超の出資を2019～2020年にかけて実施。
- MUFGの東南アジアのグループ銀行とGrabによる各種提携やGrabのテクノロジー等の日本への還元といった協業が進行中。

・ Grab社とMUFGパートナーバンクの協業

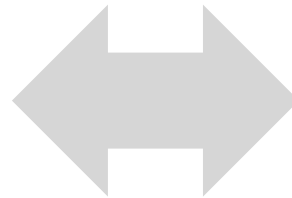


・ タイにおける協業事例



ASEANにおけるMUFGとFinTechスタートアップの協業事例 ②Investree

- インドネシアでトップクラスのP2P Lendingスタートアップ。
- MUIPでは2020年に出資し、Bank Danamonが当社と提携。直接のリーチが難しい中小企業に当社プラットフォーム経由でアクセス。
 - ・ ローン・チャネリングと共同での金融商品開発で提携



ASEANにおけるMUFGとFinTechスタートアップの協業事例 ③Tulp Street

- インドネシアのマイクロ・スモールマーチャント（MSMB）向けに、DXソリューションであるデジタル帳簿BukuKasとオンラインショップ開設支援のECプラットフォームTokkoを提供。
- MUFGは傘下のBank Danamonを通じて当社と協業し、当社顧客であるMSMBに対してバンキングサービス等を提供。将来的には、ローンの提供も検討。

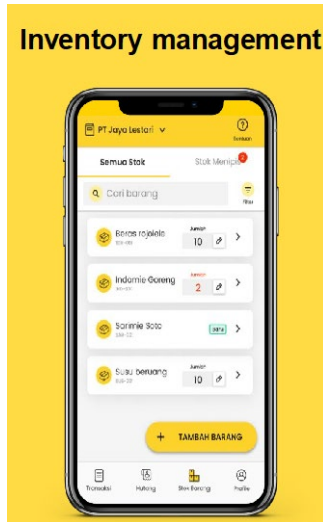
• デジタル帳簿BukuKasは顧客DXを支援

• オンラインショップ開設支援Tokkoにより売上拡大支援

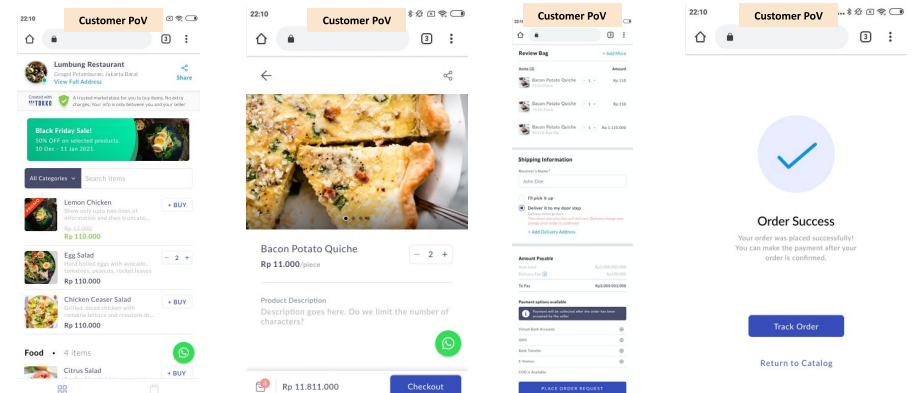
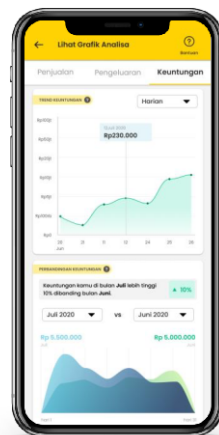
Invoice sharing



Inventory management



Advanced analytics



ご清聴ありがとうございました